

草蒔沢

一九八四年八月四日

コルよりすぐ下の草蒔沢に降りる。

所々にナメが出てくるが、案々下降できる。

やがて小滝がいくつか出てくるが、特に障害となるようなものはない。

沢も終わりとなる頃、六段の滝が出てきた。この沢で初めての滝らしい滝。クライミングダウンするとま

もなく二俣。ここで下降終了とし、

井戸沢

一九八四年八月四日

草蒔沢を井戸沢出合まで、クモの巣に悩まされながら歩く。水も少なく、河原歩きである。所々踏跡がみられた。

九時三五分、井戸沢出合。ここからは伐採・造林されている。

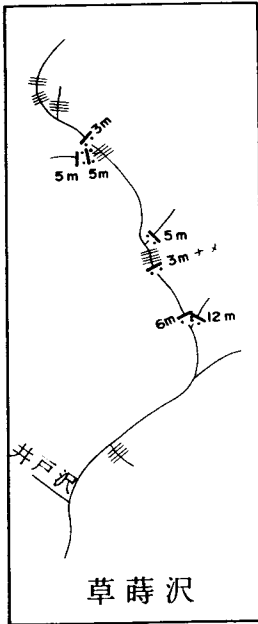
下の道路まで続く踏跡に上がる。
(記)

「タイム」 下降開始(一一:三〇) ↓
終了(一二:二五)

井戸沢に入ると、すぐに兩岸が狭まり、最初の滝三段。何なく越えて先に進む。

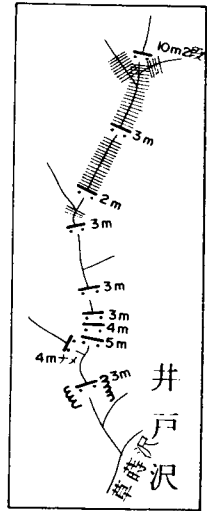
左側から滝となって支沢が合流したあとは、五段前後の滝の連続となる。

ここを過ぎると、伐採によってヤブがひどくなった中を苦勞して進まねばならなくなる。その伐採地も、

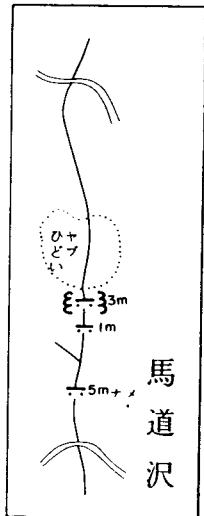


草蒔沢

井戸沢



水もなくなり、尾根に向けて上がってゆくと、カモシカに出合った。しばらく一緒に尾



抜けるとすぐに道路へ出た。

「ここらあたりの沢で一番苦労することは？」と聞かれたなら、伐採地のヤブを一番にあげることだろう。そんな感じを強くもつ沢である。

(記)

〔タイム〕 馬道沢出合(一二・四〇)

↓終了(一二・三〇〇)

根に向けて上がる。尾根にて現在地を確認して、草薨沢の下降点へと歩く。

〔タイム〕 井戸沢出合(九・三五) ↓
終了(一一・五〇)

馬道沢

一九八四年八月四日

林道ぞいの何もな沢とわかっていても、地域研究を進めてくるうちに入らざるをえなくなってくる沢のひとつがこの馬道沢である。水はかすかに流れている程度。五つのナメ

滝がわずかに華をそえているだけの沢である。

小滝二つを越えてゆくと、沢は湿地に入り、その先は伐採地となってヤブがひどくなる。苦労してここを

